



令和8年(2026年)9月7日
豊中市立桜井谷小学校
学校だより No.9
校長 渡部 潤也

9月の全校朝会での話



みなさん、9月3日は何の日か知っていますか。ドラえもんの日です。

ドラえもんの日は、2112年9月3日です。

ドラえもんは、困ったときにひみつ道具を出してくれるので、「何でもできるロボット」のように見えます。でも、ドラえもんのお話をよく見ると、大切なことが分かります。

ドラえもんは、のび太くんを助けることはありますが、のび太くんの代わりに宿題をしたり、勉強したりはしません。最後に頑張るのは、いつもののび太くん自身です。みなさんの周りにも、困ったときに助けてくれる人がたくさんいると思います。

おうちの人、先生、友達です。でも、その人たちも助けてはくれるけれど、みなさんの代わりに勉強したり、運動したり、挑戦したりすることはできません。一歩を踏み出すのは、自分です。二学期は行事もたくさんあります。「できないからやめよう」ではなく、「まずやってみよう」「失敗してももう一回やってみよう」そんな気持ちで過ごしてほしいと思います。

みなさん一人一人の中にも、まだ気づいていない素敵な力があります。

「助けてもらいながらも、自分で頑張る」

そんな二学期にしていきましょう。

最後に、学校教育目標の確認をしました。

「子どもが輝き 進んで学び とともに生きる みんなの学校」

失敗やまちがいをおそれずチャレンジすること、そして、ともだちや先生とのつながりを大切にしながら、9月もがんばりましょう！

<おすすめの本書紹介>

「不登校の子どもに、お母さんができる一番大事な
こと」(谷圭祐 著)

今年8月31日に発行されたばかりの本です。

著者の谷先生は、36年にわたり8,000人以上の子
どもたちと向き合ってきました。その経験に裏打
ちされた数々の言葉に、大変感動しました。

教員になって25年、私も多くの子どもたちと出会
い、今でも悩みながら子どもたちと関わっています
が、この本を読み、勇気づけられました。タイトルに
「不登校」とありますが、「すべての子ども」のため
に、「大人」ができる一番大事なことと読み替えて読み進めました。

特に、深く共感し、心に残ったのは次の言葉です。

「問題行動を裁く前に、存在そのものを引き受ける、という覚悟が親に備わった
時、問題行動は対話のきっかけになります。そして、子どもは、守られていると実
感した時こそ、自分の行動と向き合う力を持つことができます。子どもを信じると
は、何もしないことではありません。焦りを手放し、子どもの内側にある力を信じ
て待つことなのです。不安を抱えながらも、親が腹をくくることです。『この子
は、この子の道を見つける』と。」(p.121)

私自身、これまで子どもたちと関わる中で、「ありのままを受け入れる」「信じ抜
く」「励まし続ける」「どこまでも支える」「心をつなぐ」ということを大切にして
きました。谷先生の文章の随所にも、そうした思いが込められているように感じら
れ、とてもうれしく思いました。

本書は、不登校の子どもをもつ保護者の方々だけでなく、すべての保護者、学校
現場で子どもたちと向き合う教職員にとっても大変示唆に富む一冊だと感じていま
す。

